

神藏美子

たまきはる

神さまがいるとしたら、ここ。



大反響をよんだ前作『たまもの』から12年、
愛を求め、死に立ち会う、葛藤の果ての私小説／私写真。
聖書を巡る心の旅。

神藏美子 『たまきはる』

文章60ページ、写真168点から構成
表紙被写体：末井昭
B5ヨコ／232ページ／並製 デザイン：松本弦人
定価 本体3000円＋税
ISBN：978-4-89815-394-9

株式会社リトルモア
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-56-6
TEL：03-3401-1042 <http://www.littlemore.co.jp>



ご自由にお持ち帰りください。



◎本書に登場する人たち
野田風さん
銀杏BOYZ
障害者プロレスのレスラー がっちゃん
イエスの方舟の千石剛賢さん
田中小実昌さん
独立教会の牧師だった田中遵聖さん
パチプロの田山幸憲さん
寺山修司さん
江本純子さん

「人間は『親密』がないと生きてゆけないんだ」と
銀杏BOYZのライブを観て思った。
銀杏BOYZのライブは、銀杏BOYZと、
お客さんとで出来ている。
唾と汗だくのライブのなかで、
みんなそこでしか得られない親密に触れる。

父の死。
「生きていたくない」と思った長い鬱のトンネル。
夫・末井昭とのぎくしゃくした生活。
さまざまな人たちとの出会いと別れ。
それらのことを聖書と照らし合わせながら、
写真と文章で綴っていきます。

「神さまは、いるの?」と、
なぎちゃんに聞かれた。
「うん、神さまは、いるよ」
「わたしのこと見ているの?」
「うん、見ているよ」
「『神さまは、感謝するものに、
より多くの恵みを与える』って
聖書に書いてあるよ」



神藏美子 Yoshiko Kamikura
東京生まれ。
慶應義塾大学文学部国文学科卒業。『Naturita』(I.P.C)で日本写真協会新人賞受賞。
『たまゆら』(マガジンハウス)『たまもの』(筑摩書房)

父の死のポートレイトには、愛が写っている。
父がつかってた歯ブラシで、歯をみがいて
通夜にでかけたカミクラに、アラキッス♥
荒木経惟さん(写真家)

人生のどうしようもなさを、
その中に光るいろいろな色形の小石の美しさを、
じっくりと見つめることができる本です。
よしもとばななさん(作家)

神藏さんの写真には、むき出しの人生があり、
確かな時間が流れていて、空はいつも晴れてはいないが、
不思議にその中にいれば暖かさがある。
確かに自分もこの同じ世界に
生きているのだと、また思わせられました。
そうした写真集は他にありません。
リプロ池袋本店 辻山良雄さん

『たまきはる』が出ることを知り、すぐに読みました。
遠くにあるようで実はそばにあるような、
確かなようでおぼろげにしか見えない
大切なものの存在を感じ、体中に静かな電流が走りました。
この本はできるだけ早く読むことをおすすめします。
前作から12年かけた神藏さんから得るものは、
あまりにも大きいと思います。
SPBS 鈴木美波さん

神藏が、率直に、ストレートに、心情を吐露するこの写真集は、
“私”を再生する、“生”の物語である。
生きてゆくことは、なんと切ないことか。
生みの苦しみの末、この世に生を受けた『たまきはる』。
心に刻まれ、心を揺さぶられる写真集である。
内田真由美さん(アート・コーディネーター)

沢山の言葉の中に、
今の自分の持ってる苦しみや疑問への
答えがあったと思いました。
私のこれからの人生に
影響を及ぼしてくれる本です。
町田マリーさん(女優)

生きるって、おもしろいですね。
真剣に生きるということが載っていました。
とても大切な本、
これからも折に触れ開く本になりそうです。
田中小実昌さんや千石さんの言葉、
好きなものがたくさんありました。
2010年元旦の末井さんの写真、大好きです。
制作、ほんとうにお疲れさまでした。
このような作品のなかに
一瞬でも綴られたことがなによりうれしいです。
中村チンさん(農家・僧侶)

「生」と「死」の本ですが、
写真の中の死にゆくものも生きているものもなんかギラギラしている。
寺山修司なんか一番はじめに死んでいるのにすごくギラギラしている。
写真はこわい、と思うと同時に、
やはり神藏さん本人がギラギラしていると思うしかない。
何回も読んでギラギラをわけてもらおうと思います。
河井克夫さん(漫画家)

多くのコメントが寄せられています！『たまきはる』へ、

12年というスパンが、“たまきはる”を、
さまざまなレイヤーでとても深いものにしていると感じました。
一言、凄い、本です。
森山大道さん(写真家)

『たまきはる』には、死や、いなくなった人や、
失われたものがたくさん映っていて、
そこにはすぐに触れそうなほどの
リアリティしかないはずなのに、
こんなにも「見えないものが映っている」と
感じるのはどうしてでしょう。
すべてのページに、
まるで童話や物語のなかにしか存在しないような、
穏やかな光の温度を感じます。
川上未映子さん(作家)

さみしい、愛したい、しあわせになりたい。
赤裸々なまでに綴られる、孤独の叫び。
それはあまりに純粹すぎて、
個人の葛藤をこえ、読む者の胸をなぶり震わす。
写真と文章で切り出された魂そのままのかたち。
紀伊國屋書店新宿本店 今井麻夕美さん

生きて死ぬ。その単純な営みを美化しない。
日常に祝福を求めようとするエゴに自戒を込めて
「それでも生きてくしかねんだよ」とタフに笑いかける。
神藏美子の写真はそういうものだ。しぶとくやろう。霧ははれる。
人生の辻辻で読み返すことになりそうな一冊。
ブックス・ルーエ 花本武さん

一家に一冊たましひの常備薬
上杉清文さん(劇作家・日蓮宗本因寺住職)



美子さんの写真と文章は、まっすぐで、うそがない。
だから、心の奥までつきささって涙が出るのかもしれないです。
『たまきはる』を作ってくれて、ありがとう。
12年間の、美子さんの、悲しみや苦しみや愛が、
たくさんの人の心の中に入りこんで、
いろんな気持ちになって、またちがう人に伝わっていくような気がします。
塚田佳奈さん(デザイナー)

『親密』を切望している自分に気づかされ、涙しました。
自分の欲望とまっすぐに向き合っている
神藏さんの写真と言葉には、心を驚掴みにされます。
『たまきはる』は私の心のバイブルとして、
道に迷った時に何度も開くことになりそうです。
ペヤンヌマキさん(ブス会*主宰・劇作家・AV監督)

たまきはる
神藏美子